

ベトナム災害対策事業上半期報告
(2011年1月1日～6月30日)
—第4次5ヵ年計画第1事業年度—

1. 期待される成果

本事業は国際赤十字・赤新月社連盟(以下「国際赤十字」という)の「2020年に向けた戦略」に沿って、災害や危機から住民の命と生活を守り、回復する力を強化することを目的としている。事業の戦略としては、クアンニン省、ハイフォン省、ニンビン省、タンホア省、ニェアン省、ハティン省、タイビン省、ナムデイン省、ホアビン省、ビンフォック省の10省において、コミュニティの災害対応能力を強化し、気候変動のような自然災害にかかる脆弱性を軽減させることにある。



植林されて10年が経過するハイフォン省のマングローブ

©Susana/IFRC



第4次5ヵ年支援事業を実施している10省

2. 事業概要

2011年1月に事業終了時評価を実施し、その結果として、事業管理体制を向上するために必要

な調整を行うことを前提に、事業を継続すること、また、マングローブ植林から災害リスクの軽減と、自立発展性及び出口戦略の確立を可能とする方策を採るよう提言が示された。

第4次5ヵ年計画では、災害リスクの軽減や脆弱性及び対応能力評価調査(Vulnerability and Capacity Assessments、以下「VCA」という)の実施、生計手段に通ずる研修や避難訓練などの災害対応訓練を行う能力を高めることとして、山岳地帯2省を含めた10省のうち、56村が事業対象地域として選定されている。今回選定された事業対象地域はスイス・ジュネーブにある国際赤十字事務局からも支援されることとなっており、2011年6月末までにベトナム赤十字社の講師により51の災害リスク軽減研修が開催され、VCAも5回実施された。

ベトナム赤十字社本社は事業管理者、調整役、会計担当者及び事務管理担当者の4名から成る事業管理委員会を発足した。事業実施地域となっている10省の支部もまた事業管理者、事務管理担当者及び会計担当者の3名から構成される事業管理委員会を発足させた。当該事業管理委員会は、組織強化や資金調達、ボランティア管理などの技術的支援を行うべく、その機能を拡大する予定である。国際赤十字ベトナム地域事務所は、気候変動の緩和や事業への適応するため、2011年5月にインターンを配置した。ベトナム赤十字社の主導的役割を増強するとともに、国家レベルの災害リスク軽減にかかる枠組みと同様に本事業の活動計画書を作成すべく、コンサルタントを起用した。

会計報告

本事業への支援公約総額は446,543スイスフランであり、そのうち392,672スイスフランを2011年6月30日までに受領した。なお、6月末までの支出額は、75,032スイスフラン(支援公約総額の17%)である。

事業に参加した人数

2011年上半期において、51村1,275人の人々が災害リスク軽減研修に参加した。そのうち28%が女性で、72%が男性であった。VCAに1,800人が参加し、災害リスクの軽減や社会経済的発展計画を作成した。当該計画の対象者は5村26,900名である。

関係機関との関係構築

国際赤十字は事業対象地となっている16省に対して技術的支援を行うため、ベトナム国内に駐在するアメリカ赤十字社、ドイツ赤十字社、オランダ赤十字社、ノルウェー赤十字社及びスイス赤十字社と協働している。ベトナム赤十字社本社の救護課に所属する職員は、200万米ドルを超える予算を原資として6つのコミュニティにおける災害リスク軽減事業に奔走している。多忙を極める状況を打開すべく、月例の作業部会を開催するほか、コミュニティにおける災害リスク管理の枠組みを作成したり、ベトナム赤十字社やその他赤十字社に対して災害リスク軽減及び気候変動への対応にかかる行動枠組みを啓発するなど、様々な取り組みを実施している。

ベトナム赤十字社と国際赤十字ベトナム地域事務所は、国内の事業を調整するため、ベトナムの災害対策センター(Disaster Management Center、以下「DMC」という)と協働しているほか、国連開

発計画 (United Nations Development Programme、以下「UNDP」という) や国際 NGO (International non-governmental organizations) とも協働しており、災害対策や VCA の講師を各機関に派遣している。ベトナム赤十字社本社は DMC、UNDP や他の関係機関からの要請に見合うよう、VCA のファシリテーターの研修回数を増やすよう要求している。ベトナム赤十字社及び国際赤十字はベトナムの気候変動作業部会のメンバーになるため、UN-REED+とも協働している。

3. 活動内容

2011 年上半期に自然災害によって 66 人が死亡し、家屋や農地が被害にあった。また、ベトナム北部の冷害によって、6 万頭の牛が死亡した。被害総額は 2 兆 2,000 億ベトナムドンと見積もられている。ニェアン省では岩盤すべりが発生し、16 人が死亡、多数の負傷者が発生している。ベトナム赤十字社ニェアン省支部は働き手を失った 25 世帯への支援を行うため、2 億 6,000 万ベトナムドン (約 9,000 スイスフラン) の寄付を募った。タンホア省支部も 2011 年 5 月に起こった竜巻によって被災した 5 名の負傷者と 18 世帯を支援するため、寄付を集めた。6 月 25 日に台風「ハイマ」が再度ニェアン省の山岳地帯で甚大な洪水被害をもたらし、65 世帯が崩壊、数千ヘクタールの田んぼが被害にあった。被害総額は 1 兆ベトナムドン (4,100 万スイスフラン) と算出されている。ベトナム赤十字社本社とニェアン省支部は早々に被災した 400 世帯に対し、毛布、蚊帳、台所セット、貯水タンク及び現金 1 億 8,900 万ベトナムドン (7,900 スイスフラン) を含む家族キット 400 セットを供与した。

ベトナム政府の農業・農村開発省暴風洪水管理中央委員会はガイドラインの策定や会計システム、モニタリングや評価を含む政府主導のコミュニティでの災害リスク管理事業を開始するため、今後数回にわたって会議を開催する予定である。ベトナム赤十字社の講師はこの政府主導事業で重要な役割を果たすことになっている。

この上半期において、ベトナムの経済成長率は 5.557% であった。物価上昇率は昨年と同時期に比べて、消費者価格指数 16.3% とともにかなり高くなっている。ベトナムドンとスイスフランの為替レートは為替レートの大きな差異や事業計画や予算の改訂が原因でかなり不安定に変動している。

ベトナム赤十字社は、村、県及び省レベルの理事会や幹部を新たに選出する 5 年に 1 度の大会を開催するため、非常に忙しい。地方政府や本社、その他関係機関との調整に時間を割いているため、通常の活動実施に影響している。

洪水で被災した世帯に救援物資を配布する本社とニェアン省支部職員



©Trung Nghia/VNRC

4. 活動実績

事業目標:選ばれた 100 村において災害への備えを万全にし、災害に対する回復力を強化する。

1994 年から 2010 年までの実績として、888 万米ドルの予算を元手に事業対象地域の 166 村において、9,462 ヘクタール、100 キロメートルの堤防にマングローブを植林した。日本赤十字社やデンマーク赤十字社の支援を得て、ベトナム赤十字社によって植林されたマングローブは国内に存在するマングローブ林の 4.27%を占めている。直接的な受益者は約 35 万人にのぼり、マングローブや竹などの樹木に守られている、もしくは間接的に恩恵を受けている受益者は 200 万人とみられている。

防災研修は 222 村で実施されている。約 1 万人の教師から 32 万 4,700 人の小学生が災害への備えについて教育を受けている。加えて 6,000 以上の地区・分区や赤十字メンバーが同じく防災に関する研修を受講している。事業における費用便益の割合は 18.64 から 68.92 とかなり異なる(環境の側面からの便益は含まれていない)。マングローブによって吸収される温室効果ガスは、42 万 5,000 人分に相当すると推測されている。また、マングローブによる二酸化炭素吸収の価値は 1997 年から 2025 年までの間で、米ドル換算にして 2 億 1,800 万米ドル相当と試算されている(二酸化炭素 1 トンにつき 20 米ドル換算)。

長期の開発計画において、国際赤十字社は日本赤十字社からの支援のもと、5 年間の事業計画書を含めてコミュニティにおける災害リスクの軽減に関する全体的な枠組みを推し進めるため、ベトナム赤十字社を支援していく予定である。事業資金は 1997 年から日本赤十字社によって財政支援されており、2015 年まで継続される予定である。

事業成果

期待される効果1:

2011 年に発生するであろう災害への備えを行うとともに、対応できるようコミュニティのメンバーを指導すべく、100 村 2,000 人が、気候変動、VCA 及び生計手段の回復を含める地域のリスクについてより意識するようになる。

鍵となる活動

- ・2,000 人を対象に、災害リスクの軽減や気候変動への対応、VCA に関する研修を 100 回行う
- ・100 村において災害リスク軽減計画や緊急時対応策を作成する



10 年前に植林されたダイホップ村のマングローブ ©Susana/IFRC

期待される効果 2:

緊急救援チーム 100 チームに対して救急法や緊急救援にかかる知識、技術及び資機材が与えられる。

鍵となる活動

- ・緊急救援チーム 100 チームに対し救急法や災害時救援に関する研修を行う
- ・緊急救援チームに必要な資機材を供与する

期待される効果 3:

早期警告システムや再植林、土地の有効活用、災害リスク軽減計画、給水・衛生促進活動、避難計画などのコミュニティにおける災害リスク軽減に関する取り組みが 25 村において実施される。

鍵となる活動

- ・VCA の結果に基づく適切な災害リスク軽減手段を選択する
- ・選択した災害リスク軽減手段を実施するため、コミュニティに働きかける

達成した活動

事業予算を受け取り、2 つの第三者事業評価報告や日本赤十字社からの助言を得た後、ベトナム赤十字社は事業対象省 10 省と技術支援や人材のニーズの適合に関して協議を行い、活動計画書を改訂した。

2 日間にわたる災害リスク軽減に関するワークショップ 51 コースはベトナム赤十字社の講師によって実施され、人民委員会委員や活動団体、教師や赤十字メンバーなど 1,275 名が参加した。今年 1 年の目標を 2,000 人としているため、63% がすでに達成されたと言えよう。参加者は地域に潜在するリスクやその影響、気候変動のリスクや災害への備え、リスクの軽減方法や緊急時対応策について話し合いを行った。



災害リスク軽減に関する研修に参加し、修了書を受領した参加者

©Luong/RC chapter

研修参加者のうち、平均して25%が女性である。あるコースは1人しか女性の参加者がなかったものの、ほかのコースでは19人の女性が参加した。19の研修コースでは女性の参加者が約2人から5人、23のコースでは6人から10人が、5つのコースでは11人から18人の女性の参加者があった。ほかの5つの研修コースは125人を対象にしており、ニェアン省やクエンニン省において7月中に開催される予定である。



VCAについて協議する女性グループ

©Hoang Luong/Hai Phong chapter

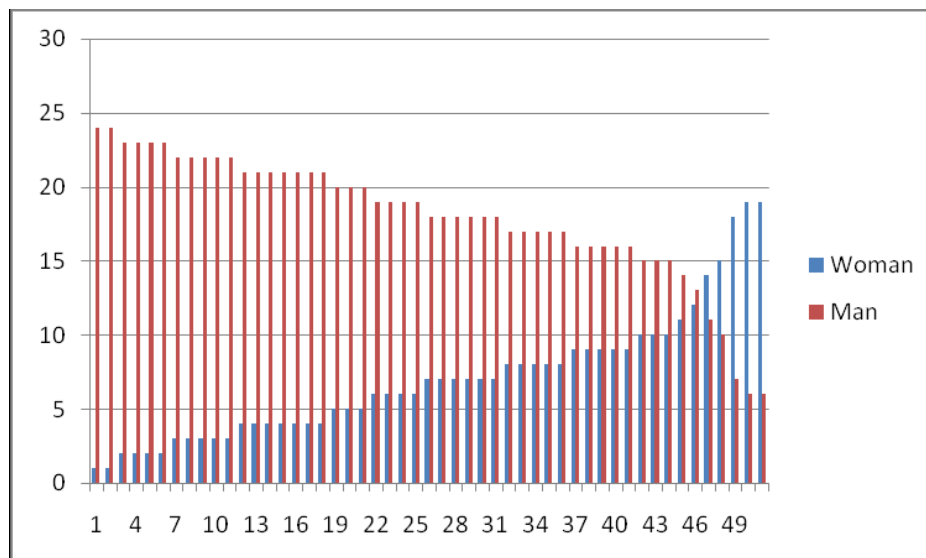
事業対象地のハイフォン省、ハティン省及びニェアン省で6月末までに5回VCAが実施された。これ

は、さまざまな立場のコミュニティの人々が災害に関する脆弱性を軽減し、優先して取り組むべき課題や災害への回復力を強化する方法について協議したり、意見交換する機会となった。

子どもや障害者を含む合計2,000人以上の住民が4日以上にわたってVCAに参加した。ベトナム赤十字社の講師は、VCAの報告書や災害リスク軽減計画の完成を支援することとなっている。

コミュニティのメンバーはVCAの報告書完成を目指している。彼らの参加率は42%で子どもたちの参加も26%に達しており、大きな役割となっている。障害者や女性などの社会的弱者は地域に潜在する災害リスクや対応能力、また彼らのニーズの声を、VCAを通じて挙げている。

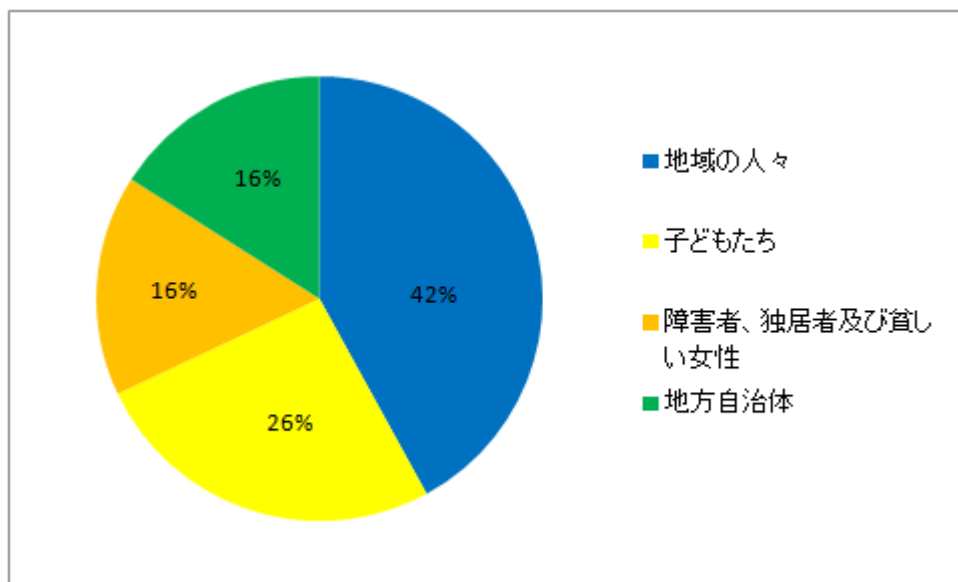
事業対象地の約2万9,600人はVCAの結果に基づく提言から正の効果が生み出されるよう期待されている。



51の災害リスク軽減研修コースに参加したジェンダーの比率

10 省のうち 51 村で 7 月から 8 月にかけて VCA の開催が予定されている。また、8 月から 9 月にかけて生計向上にかかる 56 の研修コースがベトナム赤十字社や州立農業促進発展センターによって行われることになっている。

ベトナム赤十字社の事業管理委員会と国際赤十字の職員は、VCA の報告や災害リスク軽減にかかる 25 の手段の実施について求めていくこととしており、コミュニティの支援を行う予定である。事業対象地のうち、25 ヶ所を上限として避難訓練を行う予定である。一方で、ベトナム赤十字社クアンニン省支部は地元の企業や日本の NGO マングローブ植林行動計画(以下、「ACTMANG」という)からの支援を受けて 80 ヘクタールのマングローブを植林した。ニンビン省支部は 2009 年の堤防建設にともなって、地方政府から 4 億 3,000 万ベトナムドン(2 万 500 スイスフラン)の財政支援を受け、28 ヘクタールにマングローブを植林した。1 ヘクタールあたり 1 万 9,200 のメヒルギの芽や 800 本のハマザクロの苗木を植林している。



ニェアン省の VCA に参加した人々の割合

ニンビン省のマングローブ保護チームは質の高い業務を行うためにチームを強化した。ベトナム赤十字社本社及び国際赤十字は移転地域になっていた村の 40 ヘクタールのマングローブ林を保護するため支援を実施、結果的にニェアン省政府はベトナム赤十字社の提言に合意し、赤十字によって植えられたマングローブを保護するため移転計画を否決した。

地方政府からの補償や企業からの支援はクアンニン省やニンビン省のマングローブ植林活動の継続に貢献することとなるだろう。

課題

経済社会的な沿岸地域発展計画の承認は、第 4 次 5 年計画もしくは長期にわたってマングローブの植林や保全に影響するものと思われる。2011 年 5 月から 10 月までの 5 ヶ月間に国際赤十字ベトナム地域事務所及びベトナム赤十字社によって配置されていたインターンは本事業で植えたマングローブの植林マップ作成を支援しているほか、長期にわたるマングローブ保全のため、世界的な二酸化炭素市場からの資金調達の可能性を探る調査を手助けしている。別のインターンは重

要な教訓や調査結果を第 4 次 5 ヶ年計画に統合する作業を行うべく、ベトナム赤十字社及び国際赤十字ベトナム地域事務所を支援している。



クアンニン省のマングローブ植林の様子 ©Quang Ninh chapter

ベトナム赤十字社は、すべての事業関係者の関与を積極的するとともに、ベトナム赤十字社本社からのモニタリングや事業の自立発展性を強化するため、ベトナム赤十字社や国際赤十字職員、外部有識者らで構成される事業管理委員会及び作業部会の機能拡張について支援を受けている。

ハティン省やニュアン省、タンホア省、ニンビン省、クアンニン省及びナムディン省の 6 つの省のみコミュニティで VCA を実施できる VCA 講師が少なくとも 4 人はいる。ベトナム赤十字社本社は人材が不足しているハイフォン省、タイビン省、ビンフック省及びホアビン省の 4 省に VCA の講師を派遣している。ベトナム赤十字社本社及び省支部はさらに 24 人の VCA 講師を対象にした研修を行うよう要請している。

長期にわたるインパクトへの促進要因

国際赤十字ベトナム地域事務所や関係する赤十字社は、連盟が示した災害リスク軽減や気候変動への対応にかかる行動枠組みを利用して、いかにベトナム赤十字社や事業対象地域をよりよく支援するかということに関して情報共有したり協議したりする定例会を月 1 回の割合で行っている。ベトナム赤十字社本社の事業管理委員会や各省支部は情報収集や技術的指導を供与するために、コミュニティでの活動に定期的に参加することとしている。

組織強化を担当する部署は、本社や現場職員の能力向上のため、計画、モニタリング、評価及び見直しに必要な知識を教える講師の派遣や再研修を支援している。ベトナム赤十字社の事業に対する所有意識を助長し、計画の段階から赤十字省支部及びコミュニティの積極的な関与を促進するために、参加型アプローチが利用されるものと思われる。2013 年の中間レビューや 2015 年の終

了時評価の際に用いるため、基本データは定期的に収集され、更新されていく予定である。

ジェンダーや平等性、多様性及びコミュニティの社会的地位向上にかかる世界的なガイドラインはコミュニティでの活動の実施や立案に関する手引書として使用されている。最初のステップは、コミュニティでの活動に女性の参加を促し、活動報告することである。

今後の予定

国際赤十字は第4次5カ年の事業計画書の完成とともに、今年度の10月までにコミュニティにおける災害リスク対策にかかる国家的枠組みの完成を目指すべく、ベトナム赤十字社を支援している。ベトナム赤十字社は本事業及び国内での同様の活動から得られた重要な教訓を活用することで、質の高い事業を立案し、実施するため、VCAにおいて主導的役割を果たす予定である。提案された枠組みがベトナム赤十字社の事業に必要な資源動員の支援となるだろう。



地域に潜在する災害リスクを協議するコミュニティの人々

©Hoang Luong/Hai Phong chapter

ベトナム赤十字社と事業実施地域の10の省支部は、5回の災害リスク軽減にかかるワークショップと51回のVCA、生計向上に関する56の研修及び25回の避難訓練、救命ブイやライフジャケットなど緊急救援に必要な25の基本的資機材の使用法の指導などを今後実施していく予定である。事業活動の促進と事業管理の一層の向上を目指すべく、一般大衆への啓発促進や事業モニタリングは定期的に行われる予定である。